

<b>クラス番号</b>	616	<b>担当教員名</b>	片山 善博
<b>テーマ</b>	福祉の人間学		
<b>著書・論文 研究課題等</b>	著書：『差異と承認』創風社、『生と死の倫理－「死生学」への招待－』DTP出版、共著『＜居場所＞の喪失、これからの＜居場所＞』学文社、共著『新時代への源氏学 架橋する＜文学＞理論』竹林舎など 論文：「福祉哲学再考のための試論」、「環境哲学の一つのプログラム－自然哲学と倫理学を統合すること」、「人間を問うことの現代的意味」、「承認論の視点から見た遺族ケアの哲学的考察－HBV 遺族調査を踏まえて－」など 研究テーマ：近代ドイツ哲学、社会福祉の哲学		
<b>ゼミナール概要</b>			
キーワード：心と身体、福祉の文化、生と死の倫理			
<p>目的、内容、方法等：</p> <p>医療も福祉も究極的には、「人間」を探究する人間学に行き着きます。例えば、医療や福祉の対象となる「心」や「身体」、あるいは「両者の関係」のあり方は、心身問題として古代から現代に至るまでさまざまなかたちで議論されてきました。また対人援助の基礎となるような「他者の理解」、「自己と他者との関係」のあり方なども、他者論として、これまたさまざまなかたちで議論されてきました。こうした心や身体や他者をめぐる問いについて、ゼミの皆さんと議論しながら、知見を深めていくことが、ゼミの目的です。</p> <p>内容としては、「心身問題」「医療倫理」「ケア倫理」に関する問題を取り上げたいと考えていますが、より根源的な人間の「生」と「死」の問題にまで踏み込めるようなテーマにまで行きたいと考えています。</p> <p>方法としては、文献講読とゼミ発表を通じて、理解を深めていきます。読む力を身につけることが、発表に深みを与えることとなります。文献については、フロイトの『精神分析入門』または臨床哲学に関するもの（例えば鷺田清一『聴くということの力』など）を考えています。ゼミ発表については、まずは、各自でテーマ（問い）を立て、15分程度で発表してもらいます。その後ゼミのメンバーで議論をします。議論については、問いに対する答えを考えるというよりも、発表者が「どうして私はこういう問いを立てているのか」を考えることを通して、「問いそのもの」を深めていくというやり方をします。問いを深めるということは、新たな自己発見につながります。</p> <p>授業計画：</p> <p>専門演習Ⅰでは、文献購読とゼミ発表を中心に進めていきます。文献については、初回に決めます。文献についてのレジュメを作成し、報告をします。前期と後期にそれぞれ一回ずつ発表をすることとなります。参加者間で、議論したことを、次週までにコメントを記した短い文章を書きます。自らの意見を簡潔に文章化できることがねらいですが、これは考えを深める上でも重要な作業です。また、適宜、映像文献を用いたり、ゲスト講師の方にお話をいただきます。専門演習Ⅱでは、卒論の作成が中心となりますが、卒論提出までに各自2回の中間発表を行います。また、ゼミ時間外の個別指導も適宜行います。</p>			
<b>担当教員からのメッセージ</b>			
<p>ゼミでは参加者相互のコミュニケーションがとても大切になります。対話や議論を通して人は自己を形成していくものと考えます。異なる意見を尊重しながら、自己の知見を深められるよう積極的に参加してください。</p>			